

## 課題管理実施報告書

報告日：09年11月26日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	アジアにおける睡眠学ネットワークの形成（第一回アジア睡眠サミット）
実施日	2009年10月30日（金）～11月1日（日）3日間
場所	万国津梁館サミットホール（沖縄県名護市）
形式	一般公開・ <u>シンポジウム</u> ・セミナー・講演会・ワークショップ・その他（円卓会議） 展示物：有（ <u>機器・設備</u> ） <u>パネル</u> ビデオ上映 体験型 その他（ ）） 無
対象者	一般 学生（中学・高校・大学） <u>その他</u> （アジア各国の睡眠学会代表と研究者）
来場者	人数：100名、（内訳 アジア各国の睡眠学会代表：40名、研究者：60名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 <u>メディア取材</u> プレリリース（ <u>HP</u> ）メール発信 その他（ ）
実施者	第6回アジア睡眠学会沖縄サテライト会議：「第1回アジア・オセアニア睡眠サミット」 実行委員会 大川匡子（アジア睡眠学会会長）、本間研一（アジア睡眠学会事務局長） 裏出良博（日本睡眠学会理事）、名嘉村博（日本睡眠学会理事、実行委員会代表）
内容	アジアの10の国と地域（日本、韓国2団体、中国、香港、台湾、マレーシア、タイ、インド、トルコ）の睡眠学会代表が一同に会し、各学会の抱える睡眠医療の現状を紹介した。オーストラリアン睡眠学会（オーストラリア、ニュージーランド）代表団や、アジア地域への市場開拓を狙う医療機器メーカー関係者もオブザーバーとして参加し、睡眠科学、睡眠医療、睡眠社会学の3分野について意見交換を行った。
効果、問題点、今後の展望と課題	○効果： 1) 2011年10月にアジア睡眠学会がホストとなって、アジアで初めて開催する世界7地域の睡眠学会合同総会（WorldSleep2011京都大会）の準備委員会を設立できた。 2) アジア各国と各地域の医療事情（医療保険制度の違い、医療機関数、睡眠障害患者数、等）に大きな差があることが再認識できた。各学会の紹介した睡眠医療の現状をアジア睡眠学会のホームページに掲載することになった。（担当：Dr. Nanda Hruda Mallick、インド） 3) 会員数の少ない組織（Study group）や個人としてのアジア睡眠学会への参加を認めることが了承された。同様のシステムを採用しているヨーロッパ睡眠学会の運営方法を参考に規約改正に着手する。 4) 睡眠医療先進国としての日本やオーストラリア、ニュージーランドでの睡眠医療制度の発展の歴史に、他の学会から大きな関心が寄せられた。 5) アジアでは唯一、日本だけが睡眠時無呼吸症候群の治療器具（CPAP）の保険適応が認められている。各国から保険適応に向けた活動への指導と、保険適応による医療効果や経済効果に関する情報提供の依頼を受けた。 6) タイで睡眠医療関係者を中心とする新たな睡眠学会が組織された。（報告：Dr. Nitipatana Chierakul、タイ）従来から存在したタイ睡眠学会は睡眠の基礎研究者を対象とした組織であることが判明した。 7) 韓国睡眠学会から、韓国の小学生は中学受験のために睡眠時間が極端に短くなっていることが報告された。韓国睡眠学会から、「子供の正常な心身の成長に充分

	<p>な睡眠時間を確保することが大切である」ことをアジア睡眠学会として韓国政府に進言してほしいと依頼があった。</p> <p>○問題点：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィリピンの睡眠医療従事者はアメリカ睡眠学会との交流が盛んで、アジア睡眠学会のメンバーとしての意識が希薄である。</li> <li>2) パキスタンとインドネシアの睡眠学会に招待状を送付したが、返答を得られなかった。両国の睡眠学会は十分に機能していないようである。</li> <li>3) シンガポール睡眠学会の関係者は日程調整がつかず参加できなかった。多忙な医師や研究者の参加を可能にするために、テレビ会議などのシステムを導入する必要がある。</li> <li>4) 韓国、タイ、イスラエルには複数の睡眠学会が存在し個別に活動している。それぞれの活動状況を把握する必要がある。</li> <li>5) アジア睡眠学会としての活動を継続するために、個別学会に応分の活動資金の供出を求める必要がある。その分担金の割合を早急に決定しなければならない。</li> <li>6) 上部組織である世界睡眠学会連合からアジア睡眠学会へ要望の出されている分担金の支払いに関しても、アジア睡眠学会としての立場を統一する必要がある。</li> </ol> <p>○今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題：参加者全員が定期的な開催を希望した。日本がアジアの睡眠医療をリードし、WorldSleep2011京都大会を成功させるため、来年度も日本で第2回アジア睡眠サミットを開催すべきである。</p>
<p>反省事項</p>	<p>○反省点：アジア諸国の個別事情に適合した共通テーマや、各国から要望された睡眠医療従事者の教育プログラムを、睡眠医療先進国の日本が事前に提案すべきであった。複数の国では通信環境が悪いので、招聘作業をもっと早期に開始すべきであった。</p> <p>○他の実施者に参考となる事項：アジアでのネットワーク形成には個人的な繋がりが極めて重要である。先方での教育講演などを引き受けた学会との交渉は極めてスムーズに行えた、従って、事前の海外での積極的な活動がネットワーク形成に有効である。</p>
<p>特記事項</p>	<p>○気づき事項、要望等：アジアにおけるネットワーク形成に役立つ欧米の研究者の招聘費用も支出できるとありがたい。WorldSleep2011京都大会の開催に向けて、来年度、第2回アジア睡眠サミットを再度日本で開催したい。</p>